

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1190800332		
法人名	株式会社エスケアメイド		
事業所名	エスケアホーム越谷		
所在地	埼玉県越谷市七左町1丁目69番3		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護に特化しています。 ・食事、運動、レク、医療を生活の軸とし、心身の健康を維持することを重視しています。 ・お客様個々の状態や認知症状を個性と捉え適時・適切な対応を柔軟にご支援させていただいています。 ・ご本人様ができる事、できない事を把握し、できる事をより生かし、出来ない事は丁寧に分析しサポート・チェレンジのお手伝いをさせて頂いています。 ・身体状況の変化や入院、退院後の状況に応じて主治医・看護師・専門医の意見やアドバイスを頂き生活活動や歩行、排泄リハビリ等を生活にとり込み自立に向けた支援を行っています。 ・身体状況にあわせ、一般浴槽、特殊浴槽を設備し、保清を維持しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・「地域で暮らす全ての方々の尊厳を支え、いつまでも健康で笑顔あふれる生活をおくれるよう、医療と介護の連携を通じて社会の発展に貢献します」という企業理念のもと、日々の体調管理、QOL低下防止策や急変時対策など、速やかで的確な対応が取られ、利用者の安心・安全な暮らしに結び付けられている。 ・委員会組織と研修システムが確立し、ケアサービスに活かされている。介護における様々なケース事例に基づく研修が行われ、職員のスキルアップに向けた取り組みが行われている。 ・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	企業理念・経営方針・行動指針・事業所信条を各ユニット事務所内に掲示、朝の朝礼にて企業理念・行動指針を唱和し、職員の名札の裏に印字したものを携帯している。又個別面談時に職員と共有し意見交換を行っている。	「地域で暮らすすべてのの方々の尊厳を支え、いつまでも健康で笑顔あふれる生活をおくれるよう、医療と介護の連携を通じて社会の発展に貢献します」という企業理念のもと、笑顔の溢れる利用者本位のケアサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染拡大の観点から交流は日常的行われていない。しかし、町内会・地域の方との挨拶は積極的にを行うように職員に指導している。	コロナ禍の中、限定的であるが、散歩など外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、自治会活動やイベント時での交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在対人交流が行われていない状況下で地域貢献は流動的になり、困難な状況下ではある。唯一お客様と一緒に近所を散歩し、支援やご理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ感染拡大の観点から今まで行っていた運営推進会議が開催されていない。2か月に1回行事報告、お客様のご様子や行事の様子を写真でご報告している。常時ご意見や情報収集ができる窓口を管理者が行っている。	現在は書面での報告がなされ、地域包括支援センターほか会議構成メンバーに送付し、情報の共有を図られると共に、意見・アドバイスを受け、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	越谷市の介護保険課には定期的に訪問しサービス提供、事業所の実情、ケース相談を行いご意見、アドバイスを頂いている。運営推進会議報告は地域包括への提出でいいとの事。	報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、困難事例の受け入れなど、良好な連携関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回、高齢者虐待防止兼身体拘束委員会を開催している。又、社内研修においても身体拘束廃止の取り組みの勉強会を開催している。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回、高齢者虐待防止兼身体拘束委員会を開催している。職員へアンケート方式で意見や考えを引き出し、意見交換をすることで意識改革を行っており、成果が出ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修より計画作成担当者に説明、又日常生活自立支援事業と成年後見人制度についての資料を職員が観覧できるようにファイリングしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前の実態調査の時点(アセスメント)からご説明したうえでご入居の判断をして頂いている。又ご契約時は十分時間をかけ質疑応答を頂戴し十分にご理解、ご承諾を頂いたうえで締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催が行えない状況下で、運営状況の報告は郵送で行っている。随時意見聴取は管理者が受け付けている。又意見箱を設置している。	入居者とは日常の関わりの中で話を聴き取り、適宜対応されている。家族とは面会時や電話連絡の際に意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス別担当者会議で議題、提案し意見交換や聴取を行っている。又定期的な管理者面談、自己評価面談、個別随時面談、弊社の相談窓口を設け運営に反映させている。	発言し易い職場環境がつけられ、定例会議などで意見・提案を聴きとられている。食事づくりや個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に基づき就業規則(正社員用・パート用)を設けている。又事業所別に人員配置状況の情報共有、計画年休修得促進管理を行っている。又弊社、労働組合からの慶弔見舞、文化レク、紹介制度、資格制度などを生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、内部研修、看取り研修の開催、外部研修の(地域包括主催等)参加、OJT BS制度を導入し常時サポートしている。又スキルアップの為資格制度やそれに伴う勉強会を開催、資格助成金制度を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	越谷市のグループホーム連絡会の参加、情報交換、紹介、意見交換など事業所連絡会を通して交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に数回お会いして顔見知りになり、その後に入居前面談を行っている。ご意向やご意見を聴取し丁寧にアセスメントを行い良質な関係を築く1歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前相談受付の内容を精査したのちにお会いしている。諸情報が事前にある方は情報を整理しご家族様が望む事、希望、ご意見を聴取し時間をかけ施設サービスについてご理解して頂けるように最初の段階でご説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初段階でのアセスメントに基づきサービス提供を行います。諸段階その時点での短期計画を立案し状況次第では課題を1点に絞らないでサービス提供の課題を分散している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や、掃除、洗濯などの生活行為やレクリエーション活動の立案や作業なども職員と共同で行います。人生の先輩として助言していただく事もあり互いにパートナーとして支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設でのご様子を定期的に報告し、適時情報共有している。お客様にとって最も大切なご家族様への敬意や尊重を重視し、ご一緒に考え悩み解決の糸口を見つけるコミュニティを形成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出が出来ない状況下でご家族やご友人、行きつけの場所などに十分対応できていない。現状ではご家族や友人との関係が途絶えないように外での面会や電話をして頂いたり、ハガキを書いて頂いたり、文通する機会を設けている。	最近では自粛されているが、家族や友人の面会や電話・手紙のやり取りなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同イベントは皆様と一緒に楽しめるメニューにしている。又イベントの席順や食事の配置、協労で行える環境を配置するようにしている。又職員の配置と配慮を重視し、関りが途絶えないように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居に関して、入居先の施設長やCMと面談し介護サマリーなども含めて情報共有し、ご本人様、ご家族様のご要望や不安な諸事情に対応して頂けるように連携している。又在宅復帰されたお客様の相談は都度適時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の過去の経歴や生き方、思いを注意深く観察し予測する。日常生活の言動や些細な発言から気持ちを汲み取って、やりがいや楽しみ、達成感を感じて頂くように支援している。	利用者の話を傾聴し、仕草や表情を見逃さないように努められている。職員は利用者のできることを見極め、役割を継続して行っていただく中で、笑顔が見られるように支援をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにてご本人様、ご家族様から丁寧に情報を収集している。又日常生活のなかでこれまでのお客様の生活習慣や趣味、ルーティンなどの生活に関する情報は常に収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活上での言動や行動、表情などを観察し記録に残している。定期的なカンファレンス、モニタリング、アセスメント、サービス担当者会議などで議題化し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心に定期的にカンファレンスを行っている。具体的に課題や問題点を抽出しモニタリング、アセスメントを行いご本人様、ご家族様、介護職員、他職種からの意見を集約、共有しながら検討し作成している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、担当職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットのケアウォッチャー記録にて介護記録を入力している。特記事項に常時情報を記載し全職員が情報共有できるようになっている。又、手書きの送りも生かし情報がより慎重に伝達できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な専門病院への受診や急変時の対応はご家族様・主治医の意見を重視し、適時適切に対応している。又ご家族様引率受診の送迎に関しても車椅子ご利用者など、柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設主催の消防訓練への参加、地域商店の利用、訪問マッサージや訪問理美容の活用、公共施設の観覧や避難場所の公園への散歩などを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前面談の段階で当施設の往診主治医の紹介を行いご承諾のうえ良質な関係が構築されている。定期往診は月2回、看護師、薬剤師同行で行っている。体調不良や急変時など24時間オンコール体制になっており、即時紹介状などの情報を発行できる医療体制になっている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なえるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前面談時に当施設担当の訪問看護について紹介し承諾を頂いている。月2回の定期訪問で個別の処置や相談に対応して頂いている。又看取り看護も行っており、24時間オンコール体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成、入院中も担当看護師、時に主治医と状態確認と情報共有を行っている。又、早期に退院できる体制を行う為、入院加算をご家族よりご承諾頂き、ソーシャルワーカー、主治医、薬局、看護師と情報を共有し退院受け入れ体制を万全にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で書面をもってご本人様及びご家族様の意思確認と当施設でできることの説明を行っている。あくまで意思確認であり、時間の経過と意向の変化もある為状態変化によって医療と連携しご家族様と話し合いを行っている。又、看取り・終末期ケアの研修もおこなっている。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のフローチャートを設置、事故トラブル等の緊急連絡網を活用、オンコール体制の観覧、危険兆候、症状別対応、緊急時及びAEDの使用法など一覧できるようになっている。又看護師からの実践アドバイスを頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回定期的防災訓練を行っている。お客様も参加し避難訓練の誘導、消火器の使用法など実演している。又散歩時間を利用して避難場所の公園経路の確認も行っている。	定期訓練では多くの職員が在籍する複合施設の特性を活かし、合同での防災訓練に取り組まれるほか、食料・器材などの備蓄品やライフライン寸断時の対策など、体制整備に努められている。	災害対策は十分取り組まれています。高齢者を預かる事業所として、訓練を重ねて課題を見つけ解決するなど、組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の職員が介護経験を活かし、お客様である前に人格の尊厳や年上への敬いなどに対して尊敬の意を身につけている。社内研修や高齢者虐待防止件身体拘束委員会の題材で定期的に取り上げ周知している。当施設において最重要課題の支援である。	利用者が笑顔で過ごしていただくために、傾聴と共感の気持ちで接している。目上の方であることを忘れず、言葉使いにも配慮し、尊厳を傷つけない対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とお客様の絆や関りのなかで、ご意見や思いを引き出し情報共有している。ご自身のやりたい事や決定権を損じないように受容的な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の始まりを大切にし、気持ちよい挨拶、個々のお客様のご様子にあわせ1日のルーティンを変更し、柔軟に対応できる体制にしている。又ケア内容の変更がスムーズになるように職員間の連携、連絡、共有を行える指導を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝着る洋服はご自身で選んで頂けるようにしている。又、朝の保清、定期的な訪問理美容を通して美意識を保って頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のお客様の得意、苦手を吟味し、一緒に食事の準備や片付けを行っている。又毎月お客様のご意見や嗜好を聴取し、特別食・イベント食の提供を行っている。おやつ時間を活用しホットプレートなどで手作りおやつレクなども開催している。	利用者の力に合わせて、食後の後片付けなど、職員と共に行っている。恵方巻や鰻などが提供されたり、おやつづくりを楽しまれるなど、利用者の希望に沿い、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患を踏まえ、主治医の意見を取り入れ、食事摂取量・総カロリー・水分摂取量の上限を決め管理している。提供内容はお客様の状態や疾患により量や内容、方法等18名全員違う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が個々に対応し、保清のお手伝いを行っている。仕上げが必要な方、タクトブラシが必要な方、口腔スポンジや舌ブラシが必要な方など個々に対応、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のお客様の状況に応じて声掛けや定時誘導を行い、基本排泄はトイレである。リハビリパンツや失禁用パッドを活用しご自身でできる所は見守り、手助けが必要な場合は介入する、又入院などで介護度が上がった方に対しても排泄リハビリは必ず行っている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	弊社主催での腸内環境の勉強会、給食委員会での年間課題である食物繊維を積極的に取り入れる便秘対策は事業所独自の方法で行っている。乳製品や青汁は毎日提供し、活動量が減退しないように運動や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴、特殊機械浴の2種類がある。お一人ごと湯を交換し、週に2回サービス提供を行っている。保清を保つ為臨時でシャワーや洗髪を行う時もある。バイタルチェックやその日、その時のお客様のご様子に応じ柔軟に変更できる体制にある。	週2回の入浴を基本とし、利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。一部シャワー浴や機械浴になるが、皆さん浴槽にゆっくり浸かり入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備、室温、掃除、リネン交換、布団乾燥器等を活用し、衛生を保持する事を心がけている。常時いつでも気持ちよくお休みになれるように整備し、お客様の身体状態やリズムを把握したうえで声掛けや意向を反映している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関、薬局と連携し往診の立ち合い、処方薬の説明を受けている。お薬手帳や薬情は職員が把握できるように配置し、常時変更や副作用、使用方法など口頭と書面で送りを行い情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様からの情報やご意向を踏まえ、介護職員と計画作成担当者でのカンファレンスは適時行っており、グループホームの特性を生かし個々の楽しみや役割、嗜好にも対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は日常的にご希望に沿った外出や買い物レクができていない。少人数で散歩に出かけたり、公園まで送迎し散歩する程度である。ご家族との外出も制限があり、野外での面会や散歩程度で十分な外出支援ができていない事が課題である。	現状、外出は自粛しているが、少人数となるが事業所周辺や近くの公園などに散歩に出かけられるなど、利用者の希望を大切にした支援に取り組まれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で現金の管理はしていない。しかし自己責任及びご家族様のご了承のもと持参されている方もいる。買物の立替はご家族様承諾のうえ、ご本人の好みを聞いたり、動画撮影し選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは可能である。施設の電話を用いてご家族様と話しをされたり、ご家族と文通しているお客様もいる。面会や外出制限がある為電話での会話の機会は以前より増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの室温管理、床暖房、空気清浄機、加湿器を設置しカーテンの開放で光の動きを感じ、換気も十分行っている。L時のホールで、見やすいカウンターキッチンから食事の準備や片付けが見え、参加して頂き家庭的な雰囲気を提供している。	シンプルで清潔なりビングで、キッチンはL字型に配置され、明るく快適に過ごせる共用空間となっている。梅にウグイスや雛祭りの貼り絵が飾られ、季節感ある装飾で、利用者が気持ちよく過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテーブルを3台配置し、常時使用している椅子の配置は状況に応じて移動している。又自由にどこでも好きな時に好きな時間にゆっくりできるようにソファも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前の面談の時点で使い慣れた家具や好みの物を持ち込みできることをお伝えしている。ご自宅で過ごしていた配置なども考慮しご本人様のご意向に沿って配置している。個々の好みを生かし自身で制作したものを居室内で掲示や展示も行っている方もいる。又清潔維持の為掃除は毎日行っている。	馴染みの寝具や思い出の写真などが飾られ、テレビやラジオを楽しまれている。シンプルで落ち着いた雰囲気で自分の部屋としてゆっくり過ごせる居室づくりがなされている。また、共用スペースを含め、毎日、清掃と換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット共通で廊下の手すりの設置、床の掃除、通常の広さのトイレが2箇所、車椅子が使用できる広さ1箇所、洗面台は車椅子でも使える高さで設置しており手すりもある。各所案内や注意事項を掲示し安全に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: エスケアホーム越谷

目標達成計画

作成日: 令和 5年 3月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における避難誘導について	①有事の際、近隣住民との協力体制がとれる。 ②避難経路の再確認と周知。	①有事の際に近隣住民の方々と協力を得やすいよう日頃から親交を深める。 ②消防署の方から実践的な避難経路の再確認を行う。 ③全職員に周知、想定し有事の際に的確な判断と手際よく行動がとれるように指導する。	12ヶ月
2	35	災害時用の個別リストを作成する	有事の際に個人情報・身元が分かる情報を持ち出しできるようにする。	①入居者様個別の名札を製作する(顔写真、住所、電話、血液型、身体的特徴などを記載。→ご家族様に承諾を頂く)。有事の際または避難訓練時に装着する。 ②職員が持ち出しできるような個別ファイルリストを作成する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。